

地域と協同の 研究センターNEWS

2018年5月25日発行
165号

【巻頭言】

市民が育てた言葉・実践を空洞化させないために 日本協同組合学会のメンバーとして考え合いたいこと

田中 夏子

この四月から「地域と協同の研究センター」の会員に加えていただいた田中夏子です。現在は長野県佐久市に在住し、小さな農園を営み、地元の協同組合で活動しつつ、在野で研究・学習活動を行っています。三十年前から協同組合の実践・研究に関わってきた関係で、前期（2016-2017）および今期（2018-2019）と、日本協同組合学会の副会長、会長を務めています。

■多様な立場の人々が集う強みを生かして、議論のぶつかりあう場に

本学会の特徴は、研究者と実践家との参加に支えられていること、様々な学問・活動領域をカバーし、多岐にわたる経験・考え方が持ち寄られることです。さらに、協同組合の底流にある市民自治や協同事業も含め、その研究的・実践的課題を探求してきました。したがって、参加者にはいろいろな意見、立場があり、それが生産的にぶつかりあう場として学会が機能できるよう、心掛けていきたいと考えています。

上記のような事情ですので、会として、一本化された合意となっているわけではありませんが、個人的には今日の学会活動の課題として、こうした多様性を生かした「協同組合間連携」さらには「協同組合と市民自治との連携」を探求すると同時に、以下のように「(本来の意味での)補完性原理の探究」「社会的共有財の保全」「社会的排除との闘い」といった3つの課題を意識しています。順次見ていきましょう。

※2頁, 3頁に続く

CONTENTS【増頁】

【巻頭言】市民が育てた言葉を空洞化させないために／田中 夏子	1
▶第3回アジア・カフェ「くらしのあれこれ交流しましょう！」—第4回開催案内	4
▶名古屋市立大学寄付講義「スタート」	6
▶くらしの中で平和を考える～平和があって未来がつづく～開催報告	7
▶くらしを語りあう会 ニュース No.35	8
▶情報クリップ	9
▶企画案内「くらしと協同の研究所総会記念シンポジウム」	12
▶書籍紹介「「協同組合のコモン・センス」歴史と理念とアイデンティティ」中川雄一郎	

地域と協同の研究センター 5月の活動

5月1日(火) 協同の未来塾企画委員会
5月9日(水) 市民が協働を学びあう講座企画委員会
5月10日(木) 名市大寄付講義④, 研究フォーラム職員の仕事世話人会
5月14日(月) 常任理事会⑫
5月17日(木) 名市大寄付講義⑤
5月21日(月) 愛知の協同組合間協同相談会
5月22日(火) 共同購入事業マイスターコース企画委員会, NEWS編集委員会
5月23日(水) 三河地域懇談会世話人会
5月24日(木) 名市大寄付講義⑥, アジアの平和、食と文化フェア実行委員会
5月26日(土) 第18回通常総会
5月30日(水) 協同の未来塾企画委員会, 三重地域懇談会世話人会
5月31日(木) 名市大寄付講義⑦

【巻頭言】市民が育てた言葉を空洞化させないために 日本協同組合学会メンバーとして考えたいこと（※表紙よりつづく）

■ 分断の様相に加え、市民事業がいつの間にか「担い手」化！？

多くの論者が指摘しているように、日本の諸政策は、地域、生活、産業・労働等、あらゆる場面で分断の様相が強められており、しかもそこに市民事業がソフトな形で位置付けられています。このことは、例えば福祉政策において顕著です。「共生社会」構築の名のもと、「地域包括ケアシステム強化法（2017）」が通りましたが、自前の「共生」を参加型で構築しようと奮闘してきた市民たちが、その活動基盤となる制度の縮小に危機感を募らせると同時に、その縮小に際し、国からは市民に大きな期待が寄せられていることに困惑しています（この点は昨年、学会でも研究会を開催し、その様子は6月刊の『協同組合研究』に掲載されています）。

ここではあまり協同組合関係者の間で話題となっていない地域政策を例にとりましょう。例えば、終焉した全国総合開発計画に替わって登場した「国土グランドデザイン」でも、分断の様相は明確です。リニア新幹線を基軸に「スーパーメガリジョン」（東京、大阪、名古屋の大都市圏域相互連携）が喧伝される一方で、地方都市については、実質「切り捨て」を意図する「集中と選択」がキーワードとなり、「コンパクトシティ」や「小さな拠点」がその下位に位置付けられ、多少なりとも内発的に展開してきたはずの住民自治や地域づくりがかく乱されつつあります。

「離島」にいたっては、「我が国の主権と領土・領海を堅守」するために「外海の遠距離離島に住民が住み続けることは国家及び国民の利益」「いわば「現代の防人」」（「新たな国土のグランドデザイン（骨子）」国土交通省2014年）としており、「国家の論理」で地域再編が急速に進められようとしています。

さらに上記のような国土・地域再編の「担い手」が、協同組合と地続きの「ソーシャル・ビジネス」「地域ビジネス」であると謳われている点も、協

同組合や市民事業にとっては留意を要する点でしょう。「国家の論理」を補完する道具として、上から競争的に選ばれる市民事業ではなく、国に対して、市民自治の発揮・体现を最大限保障させる、そうした、分断に翻弄されない「本来の意味の補完性の原理」が重要と考えるのは、上記のような事情からです。

■ 「社会の共有財」が「市場」に転換する流れを、協同組合はどう見ているのか？

次に、社会的共有財に対する市場サイドからの切り込みについて、T P Pを題材に見ていきましょう。本学会では、2016年秋総会にて「＜特別決議＞地域に根ざす「いのち」と「くらし」を脅かすT P Pの批准に反対する」声明を発信しました。声明のポイントは3つです。第一に、同協定が掲げる「例外なき関税撤廃」が「（日本の）農林水産業に大きな打撃を与え、国民の食料基盤のぜい弱化」をもたらすこと、第二に数多くの非関税措置の撤廃は、「食の安全・安心を守る基準や制度をはじめ、公的医療保険、保健・医療、金融・保険、政府調達、投資等の制度」的基盤（＝「いのち」と「くらし」の土台）を脅かすものであること、第三に、日本のグローバル企業が途上国の経済や環境、健康に負の影響を及ぼしてきた現状を踏まえ、日本の市民は、同協定によって被害者となるのみならず、加害者ともなりうること、です。

T P Pに体现される分断の諸局面を見ると、この中に、協同組合の重要な使命が盛り込まれていると感じています。第一の点、直近の自分たちの生活基盤を守りぬくこと、これは協同組合にとって誰にでも共有される当然の課題といえるでしょう。

と同時に、第二の点、それを成り立たせている社会の仕組みを、社会的共有財として保全していくことも、おそらくは協同組合に共有されやすい課題であるはずですが、ここで「...はずです」と書いたのは、「にも関わらず、現在、その共有が揺

らいでいるのではないか」との懸念が、私自身にあるからです。制度そのものは不足点も多くありますが、公害規制、食品安全、医療・福祉等、市民が関わりながら激しい攻防を経て今日に至った制度（社会の仕組み）も数々あります。しかし制度化されたからといって安心はできず、絶えず、その後退傾向を監視し続ける活動が必要なはずで

す。TPPをめぐる協同組合側の発信を見ていると、第一の点についての批判は多いですが、第二の点は濃淡があり、連携しきれていません（例えば主要農産物種子法廃止をめぐる動き等）。

第三は、自らの加害的側面への認識です。協同組合自身が、「共益」や「助けあい」を重視する一方で、それを越える課題については、必ずしも強くは意識してきませんでした。むしろ、理念においても実践においてもすぐれた途上国支援や平和運動、フェアトレードを積み重ねている単位協同組合は多数存在しています。そうした活動に学びつつ、同時に国際社会における日本のふるまいに、市民社会としてアンテナ貼っていく、その拠点たる資源が、協同組合には存在していると考えます。しかし、その拠点としての特性が充分発揮できていないことも事実です。

以上、自分の生活が脅かされる直接的な危機感に留まらず、「途上国をも視野にいれた社会的共有財の保全」という発想が重要と考える所以です。

■SDGsの理念「誰も置き去りにしない」を実現するための根拠地となりうるか？

最後に、「社会的排除との闘い」をめぐる協同組合の課題についてです。近年、協同組合関係者によってもSDGsへの関心が急速に高まってきました。特に「誰も置き去りにしない」という魅力的なキーワードに共感が集まっているようです。あらためて協同組合陣営として、SDGsのゴールに自らを照らし合わせてみると、その親和性の強さを再確認させられることしばしばです。

他方SDGsは、従来の国連目標（貧困、飢餓削減等）MSGsと異なり、その取り組み対象が、深刻な貧困が集中する開発途上国から、先進国の貧困層

へと拡大しました。この点、開発経済学の一部の専門家からは、途上国の貧困・飢餓や人権侵害に対する取り組みが拡散、後景化してしまうのではないかと、懸念も寄せられています。

こうした事態の回避を意図しているのでしょうか。「我々の世界を変革する：持続可能な開発のための2030アジェンダ」（2015年9月の国連総会で採択）では「我々は誰も取り残さないことを誓う」とした直後で、そのために「最も遅れているところに第一に手を伸ばすべく努力する」と述べています。「最も遅れている」は英文でthe furthestですが、これは発展段階の遅れというよりも、ゴールから最もかけ離れている状態に置かれた人々、地域という意でしょう。「最も困難な課題」への対応を主流にしないままでは、「誰も…」が実現され得ないとするこの主張は、協同組合が担う「排除との闘い」にとって示唆的だと受け止めています。

■市民が育てた概念・言葉・実践を空洞化させないために～キーワードの再定義と鍛錬

以上、私が学会の、また協同組合組織の一員として重要と考える3つの事項「補完性原理の探究」「社会的共有財の保全」「社会的排除との闘い」について概観してきました。もとより、これらは相互に関連するもので、通底するのは、「共益」で完結せず、アンテナを高くはりながら、遠くのものと思わされている諸課題を、自分たちの手元に手繰り寄せていく営みです。そのためにも、自治や共生やサステナビリティといった言葉を、自分たちの理念に見合ったものに再定義し、実践を通じて鍛錬していくことに、今後とも取り組んでいきたいと考えています。

以上

(たなか なつこ)

第3回アジア・カフェ「くらしのあれこれ交流しましょう！」

【主催】アジアの平和・食と文化実行委員会

3月31日(土)、第3回アジア・カフェ「くらしのあれこれ交流しましょう！」が開催されました。アジアの人々と交流を広げようとコープあいち、アジア・ボランティア・ネットワーク東海、地域と協同の研究センターの3団体でつくる「アジアの平和・食と文化実行委員会」で準備してきました。当日は外国人関係は8人(外国人関係の団体関係者含め)の参加があり、生協組合員・実行委員も含め35人の参加で開催しました。参加されたみなさんの自己紹介を行って、4つのグループに分かれ楽しく交流しました。(文責:事務局 大島)

参加者自己紹介から

進行役の渡部さん(コープあいち)から「この日を選んだのはちょうどお花見の時期で、本山の桜が見ごろになっているから。」と、挨拶と花見の起源について紹介があり、参加者の自己紹介を行いました。

インドネシア家族会のみなさん

フィルダダウスと言います。名古屋にはインドネシア家族会があり、インドネシア人とその家族でついています。ほとんどが留学生と働



パワーポイントで紹介

ている人です。私は遠い昔に大学を卒業し、働いています。パワーポイントでインドネシアを紹介します。

《インドネシアクイズから一部紹介》

Q1: 国の位置はわかりますか?

Q2: 国土の面積は日本の何倍でしょうか?

A: 5倍です。

Q3: 時間はいくつあるでしょうか?

A: 3つです。

Q4: 赤道直下の国ですが雪は降るでしょうか?

A: 降ります。富士山より高い山があります。

Q5: 国の名は、インドとネシアです。どういう意味かわかりますか?

A: インド洋の島々です。

日本ベトナム友好協会の早川さん

関連団体でNPO法人名古屋ベトナムネットがあります。講演会とか日本語学校とかやっています。もう一つ南遊の会があります。ベトナムでマングローブの植林を行っている団体です。8月に一週間、日本人とベトナム人で植樹ツアーをしています。4月7日(土)8日(日)には、久屋大通公園で「ベトナムフェスティバル ホーチミン in 愛知名古屋フェスティバル」が行われます。名古屋市には4千人以上のベトナム人がいますが、実習生で来ている場合が多く、この時期に3分の1が入れ替わります。今、名古屋でコンビニへ行くと、たくさんのベトナム人が働いています。コンビニで働いているベトナム人は日本語ができる人です。

日本語ができない人は製造業、漁業でホタテの殻む

き、繊維産業、トヨタの4次の下請け、5次下請けで実習生として働いています。ベトナムに会社があって、社内研修で来る人もいます。交流がすずむといいこともあります。悪いことも起こります。行政に対しても働き掛けることが必要です。多文化共生時代にふさわしい名古屋にしていくように、行政に要求を出しながら取り組んでいきます。

外国人ヘルプライン東海の後藤さん

外国人ヘルプライン東海は4年くらい前に発足しました。日本の教育制度は、外国人は希望すれば入れますが義務教育ではないということご存じですか。そんなことも含め、外国人の困り事をなんでも引き受けてサポートしたりしています。行政とか地域の団体とつないで問題を解決しています。「なんでも相談会」を、このコープあいち生協生活文化会館をお借りして、毎月第3土曜日の2時から5時に、多言語で対応できるようにし行っています。通訳派遣も行っています。外国で暮らした方は経験されると思いますが、その国の言葉を勉強するのはたいへんです。会話はできても、難しい情報や、その国の独特の制度は理解しづらいたところがあります。たいへんなことがあった時に、外国語で相談をしたりするのが難しく、市役所や区役所へ行くといつも通訳の人がいるということではありません。充分ではないので、私たちが通訳を派遣したりしています。

タンタンウィンさん

私はタンタンウィンです。ミャンマーから来て、長く住んでいます。ミャンマーには行ったり来たりしています。自分の国に住んでみたいで



参加者全員で記念写真

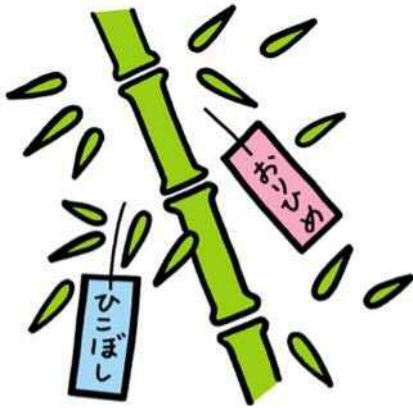
すが、日本は第二のふるさとみたいな感じです。

みんなで4つのグループに分かれ交流し、それぞれの国の文化の紹介や、外国人と接する際の悩みも出され、よい交流ができたのではと思います。

—第4回アジア・カフェ 6月30日(土)—
テーマは「アジアの七タ〜星に願いを〜」です。

第4回 アジアン・カフェ

アジアの七夕～星に願いを～



(七夕を参加者で作って会館に飾ります)

<愛知県で共に暮らす人たちのデータ>

国籍(出身地) 住民数 割合

ブラジル 52,919 人 23% **★中国** 46,861 人 20%

ペルー 7,598 人 3% **★フィリピン** 34,514 人 15%

★韓国・朝鮮 33,047 人 14%

★ベトナム 21,105 人 9%

その他 38,286 人 16.3% **★総数** 234,330 人

愛知県における外国人住民数の国籍(出身地)別内訳

(2017年6月末現在) 愛知県ホームページより

2018年 6月30日 (土) 午後2時～4時

会場/生協生活文化会館 2階ルーム1・2

参加費/お茶菓子代として一人200円

愛知で暮らす外国の人と日本の人、お茶を飲みながら暮らしのあれこれを交流しましょう。

七夕は中国から日本に伝わりましたが、星にまつわる風習は多くの国にあるそうです。各国の風習を交流してから、願いごとを短冊に書いて青竹に飾ります。共に暮らす人たちの想いの一端を知り合う場になることを願って。

★七夕や星にまつわるお国の習慣を簡単に紹介して下さる外国の方も大歓迎です!! 聞かせてください★

申込〆: 6月22日(金) 定員: 30人

連絡先: コープあいち生活支援課 tel052-781-6101

NPO法人地域と協同の研究センター tel052-781-8280

アジア・ボランティア・ネットワーク東海

tel052-781-8339(いずれも月～金 9時～17時)

生協生活文化会館(コープあいち)

名古屋市千種区稲舟通1-25

地下鉄「本山」駅④出口 徒歩2分

本山交差点



【主催】アジアの平和、食と文化フェア実行委員会

“大学生への協同組合講座” 名市大寄付講義

今年も始まりました！（第二期2年目）



人と地域のつながり、学生達は協同組織を通じて真面目に学んでいます！

—課題は、講義を進める中での学生の変化！ 協同組織への興味の芽生え！—

**今年度の受講生は110名（1年、医2名・薬1名・人社30名・芸工14名・看護13名・総生理1名
2年、経済23名・人社15名 3年、経済3名・人社4名 4年、経済3名・芸工1名）**

学部略・・・医＝医学、薬＝薬学、経済＝経済、人社＝人文社会、芸工＝芸術工学、看護＝看護、総生理＝総合生命理学

2014年度から始まった名古屋市立大学における「現代社会と人と地域のつながり」をテーマとした寄付講義は、3年を区切りとして今年度は第二期2年目を迎えました。今年は110名の学生が受講します。今回は15回のうち5回（大学生協、南医療生協、ワーカーズコープ）の講義を終え、学生たちが記した講義の感想から特徴を整理してみました。

◆学年による特徴

「法人、トリクルダウンがよくわからなかった」（人社1年）

今年度の学年別学部別受講者の数は上記の通りで、1年生61名、2年生38名、3年生7名、4年生4名です。3月まで高校生であった1年生はまだ社会の構造に不慣れなこともあり、法人組織など理解しにくい状態のようですが、2年生以上になるとある程度社会的な枠組みを理解しており、感想も具体的となります。しかし、協同組織への理解についての差異はあまりないようです。

◆学部による特徴

「僕は開業医になるつもり・・・」「看護師の視点から・・・」

医学、薬学、看護の学生は自身の進路は入学時に決めており、特に職業選択の課題では他の職種への興味は薄いようです。反面、目指す職業に結び付け描きながら講義を聞き感想を述べています。その点では、これから職業選択を考える学生との違いが明らかです。

◆協同組合との出会い

「自分たちが運営しているという責任感を持ながら

より良い学生生活を築いていきたい」（人社2年）

大学生協へは入学時点でほとんどの学生が加入していますが、組合員としての自覚はあまりないようです。しかし講義を進めるに従い助け合いの仕組みを学び、自分たちに役立つ組織として運営にも興味を示す学生の気付きもあるようです。

◆人と地域のつながり

「人とのつながりを大事にして地域貢献することに魅力を感じました」（人社1年）「子育て支援などどうしたらこういった動きが起ころのか」（看護1年）

南医療生協の活動に接し、一人の困ったに寄り添う地域活動の存在に驚きと期待を抱いています。これから直面するであろう子育てを、生協の支援で安心できるものにしたい期待も語られています。

◆社会貢献、ボランティア活動への興味

「活動に少しでも関わっていきたい」（人社1年）

将来の自分を描き「地域のつながりの仲介役になれるような存在になりたい」と社会貢献、そしてボランティア活動へと興味も芽生え始めています。学習支援などの活動に参加している学生も少なからずいるようです。

◆講義間のつながり効果

「前の講義で得た知識がさらに深まりました」（人社1年）

「生きづらさ」を感じているのは学生も同じ、むしろ将来に対する不安は大きいようです。それだけに思ったよりも真剣に生き方を考えているようにも思えます。あと10回の講義です。講師陣の奮闘に期待します。（野田幸男）

「平和・協同の学び」実行委員会主催

くらしの中で平和を考える

～平和があって未来がつづく～ 開催

文責：伊藤小友美（事務局）

「歌ごえ」で始まり、おいしいコーヒーとケーキも楽しめました

2018年5月19日（土）、コープあいちの豊橋生協会館にて、「くらしの中で平和を考える」企画が開催されました。参加者は58名でした。趣旨と概要をご報告します。

「平和・協同の学び」実行委員会は、賀川豊彦「一粒の麦を再版する会」が母体です。同会には、旧みかわ市民生協もメンバーとして参加し、絶版になっていた賀川豊彦「一粒の麦」の再販活動を通じて、地域の中で、「賀川豊彦を知らせる活動」を中心に協働してきました。実行委員会には、コープあいちの他、コープあいちの豊橋地域委員会、「一粒の麦」を語る会、イエスの友会三河支部、ここのつ会（豊橋でガラ紡に取り組み、「糸のまち豊橋の伝統」を子どもたちに伝える活動をしています）、ユネスコ豊橋支部等地域でさまざまな協同やたすけあい、平和を考える人たちのグループが参加しています。

＜開催 趣旨＞ 賀川豊彦の思想とSDGs（持続可能な開発目標）の基本理念の共通性から「くらしの中で平和を考える」「平和があって未来がつづく」という視点で学び、話し合います。

＜講演 要旨＞ 賀川豊彦の遺産 一平和・協同・未来一

持続可能な社会への先駆者から学ぶ

講師 賀川豊彦記念館松沢資料館 副館長 杉浦 秀典 氏

平和とは、単に「戦争状態」ではない、あるいは「内戦状態やテロ」ではない、ということだけではありません。人間としての尊厳を奪われていたり、命を脅かされていたり、生きてゆくのに困窮する貧困や飢餓状態や、教育や医療などの社会保障を受ける機会が得られない状態であれば、それは平和とは言えません。「人間の安全保障」には、1. 恐怖からの自由、2. 欠乏からの自由、3. 尊厳ある人間生活という3要素があります。そのどれが欠けても持続可能な開発は望めません。

SDGsは、2015年9月、国連サミットで全会一致で採択されました。「誰一人取り残されない」持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現のため、2030年までを期限とする17の国際目標です。その特徴は、普遍性、包摂性、参画型、統合性、透明性の5つです。賀川豊彦は、明治末期、救貧事業に取り組みました。賀川は、貧者の暮らす神戸のスラムへ飛び込み、地域改善に携わりました。当初は宗教者として、無料宿泊所、病者保護、医薬治療、無料葬式執行、一善飯天国屋等に取り組みました。自宅で介護もしたり、子ども達を明石へ海水浴に連れて行ったりしました。



子ども達は、教育を受ける機会もなく、生まれたばかりの赤ちゃんを預かる斡旋屋があり、親から売り飛ばされる過酷な状況にありました。貧困を目の当たりにして様々な活動に取り組みましたが、数年で無力感を味わい、米国留学を志します。

留学して新しい知見をもって帰った賀川は、人々が貧困に陥らないための仕組みづくりとして、まずは日本で労働組合運動を興そうとします。救貧事業から防貧活動への転換を図ろうとしたのです。賀川は、協同組合に高い精神性を期待しました。地域におけるくらしが平和につながると考えました。賀川は、「組合運動は、その場限りの利益中心の金もうけ主義の運動ではない。経済状態を根本的に改造せんとする協同愛の運動である」ということを確信してかからねばならない」（『協同組合の理論と実践』）と語っています。未来は、組織間協同でつくっていきたいと考えました。賀川は一人で達成しようとしたものではありません。一人ひとり微力でも、無力ではない。互いに手を取り合い組織をつくり、組織同士が協力し合うことを奨励しました。

賀川の残したものは、我々にバトンを渡されています。みんな必要とされていて誰ひとり要らない人はいません。グランドデザインを描き、協同の目的を確認しましょう。SDGsはひとつではなく、私のことがら、あなたのことがらです。賀川の友愛精神を探求し、解決にあたります。

みんなで話し合い 講演を受けて参加者で話し合いました。前科を持つ若者が、生活困窮者や非行少年、精神障がいを持つ人の支援、サポートに取り組んでいる話も出され、涙ながらの発言に会場は共感と感激に包まれました。多くの意見、感想も出され、参加者全員が温かい気持ちになれた会でした。賀川が座右の書としたキング牧師の「疑わずに最初の一段を登りなさい。」という言葉に励まされました。



くらしを語りあう会

ニュース

No.35

2018年5月25日 発行

4月15日 第37回 くらしを語りあう会 開催 — みんなが気軽におしゃべり、発信します。

今回のテーマは 「都市のくらし いなかのくらし」

『高齢社会の生活再生 「消費」の枠組みを超えた豊かな「老い」へ』

この本を読んで話し合いたいとの問題提起があって、思っていることを出し合いました。

今回初めて参加された方がありました。いつでも、どなたでも大歓迎の集まりです！

紹介した書籍では、花祭りの里、愛知県の豊根村を、都市と対比して選んでいます。

名古屋には全国に広まったモーニングという文化がありますが、その場はにぎやかだが、お互いを全く知らない現状が描かれています。消費を整えることが、生活の完成になるのかと問いかけられています。以下、話された内容のごく一部を紹介します。

○奥三河にも、南の都会と、北の山村の違いがある。新城市の中でも、鳳来町と作手村と旧新城は違って、自分は、いちばんまちなかにいる。まちなかほど人間関係が希薄になっていく感じがする。元気のもと、生産をしていることと、女性が元気だということ。それがほかと違うと思う。

○坂道を自転車に生協の商品をいっぱい積んで上がっていたとき、「たいへんだね、押してあげるよ」「荷物を持ってあげるよ」と小学生が言ってくれてうれしかった。小学校の教頭先生に伝えたらとても喜ばれた。

○子ども食堂の活動があちこちで注目されているけれど、一方的に与えるだけでなく、一緒につくる、畑もやってみるなんてことができるといいと思う。

○いなかには生産する畑があったり、ものづくりができる条件があったり、女性、高齢者が活躍できる。ただ、それがそのままずっと発展するかどうかという、発展はしない。現状維持できるかどうか。このところに、仕組みをつくらないと、中山間地に将来はない。次世代にバトンタッチできるように、何かやりたい。

◆ この会は、東日本大震災後「新しい日常へ — 文集 3・11後のくらし」を作成した会員の自主的な集まりです。どなたでも参加できます。— よろしければご参加下さい。

【第38回くらしを語りあう会】

— 会員募集！

日時：2018年6月20日（水）13時30分～15時30分

会場：本山生協生活文化会館 応接室 差し入れ大歓迎



お問合せ・連絡先 渡辺 勝弘（地域と協同の研究センター事務局）

TEL：052-781-8280

FAX：052-781-8315

E-mail kwatanab@tcoop.or.jp

情報 クリップ



メインタイトル・特集など 刊行物名・発行所	目次・主な内容	発行年月 判型 定価 税別
<p>▶若い世代との 接点を増やし 生協の魅力を伝える</p> <hr/> <p>NAVI 2018. 5 No. 794</p> <p>日本生活協同組合連合会</p>	<p>特集 若い世代との接点を増やし生協の魅力を伝える <コープのある風景> コープおおいた <今日も笑顔のコープさん生協の仲間のお仕事拜見> コープしが 前野沙織さん <想いをかたちにコープ商品> 京都生協 第 20 回商品大交流会 <生協大好きママ コプ山さんの 教えて! CO・OP 商品> CO・OP 6 種野菜ヌードル <ZOOM IN 生協の店舗づくり> 大阪いずみ市民生協 コープ大野芝 <私の本ナビ> コープやまぐち <うちの生協にはこんな人がいます> 医療福祉生協 <日本全国 宅配現場におじゃまします!> 第 3 回全国生協営業コンテスト <いつでもどこでも 地域とくらしを支えます> コープいしかわ <☆突撃☆あなたの町の組合員活動> 福井県民生協 <明日のくらし ささえあう CO・OP 共済> パルシステム東京 <この人に聴きたい> 講談師 神田松之丞さん <ほっと navi > パルシステム連合会 生協コープかごしま</p>	<p>2018 年 4 月 A4 判 36 頁 360 円</p>
<p>▶改憲・戦争に反対する 12 の理由</p> <hr/> <p>社会運動</p> <p>2018. 4 No. 430</p> <p>市民センター政策機構</p>	<p>特集 改憲・戦争に反対する 12 の理由 FOR READERS 誰も予想しなかった日本の「危険な未来」 総論 自己目的化した安倍首相主導の憲法九条「改正」シナリオ フリージャーナリスト 横田 一 ① 巨大広告代理店が影響力を持つ憲法改正国民投票の問題点 著述家 本間 龍 ② 日本の海岸に並んだ原発は仮想敵に引き金を握られた核兵器である 元原発技術者 小倉志郎 ③ 米軍の北朝鮮攻撃への支持は日本への核攻撃を望むのと同然だ 軍事評論家 田岡俊次 ④ 「核兵器禁止条約」で核なき世界の扉が開かれた ICAN 国際運営委員 川崎 哲 ⑤ 改憲より「日米地位協定」の改革を! ジャーナリスト 布施祐仁 ⑥ 護憲派は何を語るべきか—対米従属は日本政府の主体的選択 新外交イニシアティブ事務局長 猿田佐世 ⑦ 改憲を目論む「日本会議」—日本国憲法の理念の対極にある組織 子どもと教科書全国ネット 21 事務局長 俵 義文 ⑧ 子どもが批判力と客観性を身につけるためにできること 神奈川県藤沢市元中学校教諭 持田早苗 ⑨ 市民を黙らせる共謀罪と監視社会 弁護士 海渡双葉 ⑩ 国家が「あるべき家族像」を押しつける —「家庭教育支援法案」から見える戦前の社会 大阪大学大学院教授 木村涼子 ⑪ 死の商人にはなりたくない—消費者としての権利行使が武器輸出を止める 武器輸出反対ネットワーク 杉原浩司 ⑫ 危険な自民党の「緊急事態条項」憲法に新設されたら日本もナチス前夜に 東京大学大学院教授 石田勇治</p> <p>韓国語翻訳家の日々 子育ては続くよ第 3 回 お父さんがキリンや帽子になる理由 韓国語翻訳家・ライター 斎藤真理子 悼みの列島 日本を語り伝える第 7 回 沖縄・伊江島から考える戦争と基地 ライター 室田元美</p>	<p>2018 年 4 月 A5 判 224 頁 1,000 円 (税別)</p>

メインタイトル・特集など 刊行物名・発行所	目次・主な内容	発行年月 判型 定価 税別
<p>月刊 J A</p> <p>2018. 5 vol. 759</p> <p>全国農業協同組合中央会</p>	<p>J A トップインタビュー 日本一のブドウ生産部会を核に 平山 薫 (岡山県 J A びほく 代表理事組合長)</p> <p>J A ・農政トピック J A 全農における自己改革について考える J A 全農 広報部広報企画課 きずな春秋 —協同のこころ— 童門冬二 私のオピニオン ロバート キャンベレ 『八百森のエリー』の魅力に迫る (下) — 出張編 — 仔鹿リナ 海外だより [D. C. 通信] 連載 84 「2018 年大統領通商政策課題」から見るトランプ政権の通商戦略 吉澤龍一郎</p> <p>展望 J A の進むべき道 青年・女性組織との連携 石堂真弘 (J A 全中常務理事)</p> <p>第 31 回 広報活動優良 J A 紹介 審査審評 整備された広報活動体制 尾関謙一郎 総合の部 大賞 / J A あいち知多 (愛知県)</p> <p>トピック 「食べて応援しよう！ニッポンの畜産・酪農」応援キャンペーンに多数の応募！ J A 全中 農政部 畜産・青果対策課</p>	<p>2018 年 5 月 A4 判 48 頁 年間予約 5,109 円 (消費税込)</p>
<p>▶本を読まない大学生 ～大学教育と大学生協 はどう関わるか</p> <p>生活協同組合研究 2018. 5 Vol. 508</p> <p>公益財団法人 生協総合研究所</p>	<p>■巻頭言 アニマルウェルフェアに配慮した畜産物の生産と流通 大木 茂</p> <p>▶特集 本を読まない大学生～大学教育と大学生協はどう関わるか 大学生の読書事情 吉田昭子</p> <p>読書は脳の想像力を高める—なぜ紙の本が必要なのか— 酒井邦嘉</p> <p>いまどきの大学図書館と大学生の読書 ～学生生活実態調査結果から考える～ 佐々木俊介</p> <p>「リーディングリスト運動」を大学教育改革の中に 玉 真之介</p> <p>コラム 1 本を媒介とした人と人のつながりを求めて —大学生の読書活動— 射場敏明</p> <p>コラム 2 書籍部の現場から見た学生の読書傾向 小塚和行</p> <p>■研究と調査 競争力強化に向けて、IT・AI 技術の活用と国際的連携が課題 —国際協同組合保険連合 (ICMIF) の 2017 年総会報告— 崔桓碩</p> <p>■時々再録 ビブリオバトルとバトルをした思い出 白水忠隆</p> <p>■残しておきたい協同のことば (追補版) F.W. ライファイゼン 鈴木岳</p> <p>■本誌特集を読んで (2018・3) 松本浩司・林薫平</p> <p>■新刊紹介 新居格著 『杉並区長日記 地方自治の先駆者・新居格』 三浦一浩</p> <p>● 公開研究会 5/19 (京都会場)</p>	<p>2018 年 5 月 64 頁 B5 判</p>

メインタイトル・特集など 刊行物名・発行所	目次・主な内容	発行年月 判型 定価 頁数
<p>▶ 同時改定と 平成 30 年度事業計画</p> <hr/> <p>文化連情報 2018. 5 No. 482</p> <p>日本文化厚生農業協同組合連合会</p>	<p>農協組合長インタビュー (46) リニアを活かした地域活性化構想策定へ 田内市人</p> <p>診療報酬・介護報酬の同時改定を受けた情勢と 日本文化厚生連「平成 30 年度事業計画」の概要 伊藤幸夫</p> <p>院長リレーインタビュー (301) 整形外科特化型総合病院を支える専門チームの医療の力 藤井裕之</p> <p>二木教授の医療時評 (159) 国民皆保険制度の意義と財源選択を再考する 二木 立</p> <p>文化連創立 70 周年 (1) 分かってくれる時期が必ず来ると信じて 依田発夫</p> <p>多様な福祉レジームと海外人材 (2) 日本における介護人材 第 1 回 E P A 安里和晃</p> <p>韓国農業の実相ー日本との比較を通じて (21) 現場から見た大規模韓牛農家の実態 品川 優</p> <p>臨床倫理メディエーション (23) 現場の医療をめぐる臨床倫理 (3) 中西淑美</p> <p>全国厚生連病院の医療圏におけるターミナルケア意識に関するアンケート調査 第 4 報 告知は誰にするか第 7 問の再考から 服部晃・服部麗波・岩田文英・百都 健・田邊直仁・浜田正行</p> <p>全国統一献立 春の香りいっぱい 神奈川の「さくらおこわ」「ほうれん草ピーナッツ和え」 柁渕香純</p> <p>次世代に伝える「協同」 I Y C 記念全国協議会学習交流会 熊谷麻紀</p> <p>野の風●仕事も趣味も子育ても全力で楽しみたい 中村好子</p> <p>デンマーク&世界の地域居住 (108) 「高齢者が高齢者を支える」住民主体の活動 (北海道池田町) : 1 松岡洋子</p> <p>熱帯の自然誌 (26) 私の暮らし 奥地への調査行 安間繁樹</p> <p>イギリスの社会的企業 AgeUK Lewisham and Southwark Stones End day Center (1) 利用者の費用とアセスメント 小磯 明</p> <p>フランス赤十字社アンリ・デュナン病院老年科センター (1) 医療保険制度と病院 小磯 明</p> <p>◆第 14 回厚生連医療機器・保守問題対策会議開催のお知らせ ◆日本文化厚生農業協同組合連合会組織体制再編のお知らせ ◆第 4 回厚生連病院臨床研究研修会開催のお知らせ ◆平成 30 年度厚生連院内感染予防対策研修会開催のお知らせ</p> <p>□書籍紹介 世界の社会福祉年鑑 2017 □演劇紹介 劇団銅鑼 おとうふコーヒー</p> <p>▶線路は続く 122) 京阪宇治線 茶摘の里へ/西出健史 ▶DVD 紹介 ドキュメンタリー映画 種子【たね】 ▶最近見た映画 グレイテスト・ショーマン/菅原育子</p>	<p>2018 年 5 月 B5 判 80 頁 文化連情報 編集部 03-3370-2529 *注</p>

地域・協同の運動、協同組合に関する文献資料、協同組合・生協関係の研究所などの調査研究成果や研究センター会員の研究成果などから、比較的入手しやすいと思われるもの、寄贈いただいたもの(❖)などを中心に順不同で紹介しています(主な内容は目次等から事務局が要約しています)。詳細は研究センター事務局までお気軽にお問い合わせください。



2018年くらしと協同の研究所 第26回総会記念シンポジウムのご案内

日時：2018年6月30日（土） 13:00～16:30 シンポジウム

場所：コープ・イン・京都

京都市中京区柳馬場蛸薬師上ル井筒屋町4-1-1 TEL075-256-6600

申込み締切：6月18日（月）必着

基調報告（クロストーク）：『無印商品』の挑戦

現代の暮らしにおいて、わたしたちには何ができるのか？ —「無印良品」のあり方と仕組みから考える—

萩原富三郎（株式会社良品計画 暮らしの良品研究所 コーディネーター）

若林靖永（京都大学大学院経済学研究科教授 くらしと協同の研究所理事長）

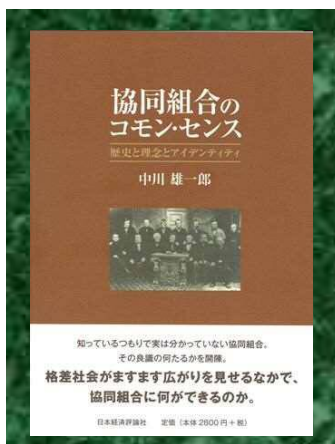
現代の暮らしを「無印良品」はどう考えているのか、「無印良品のミッションを実現するための仕組みや考え方、ユニークな商品の歴史や作り方など、「無印良品」という存在を深めるための質問を若林氏が問いかけ、萩原氏にお答えいただきます。

主催(申込み)：くらしと協同の研究所

〒604-0857京都市中京区烏丸二条上ル蔭絵屋町258コープ御所南ビル4F

TEL：075-256-3335 FAX：075-211-5037 Email：kki@ma1.seikyuu.ne.jp

書籍案内



「協同組合のコモン・センス」歴史と理念とアイデンティティ

著者：中川雄一郎 出版社：日本経済評論社 定価：本体2800円＋税

発売日：2018年5月1日 ページ数：225ページ

内容紹介

知っているつもりで実は分かっていない協同組合。その良識の何たるかを開陳。格差社会がますます広がりを見せるなかで、協同組合に何ができるのか。

目次

第1章 ロッチデール公正先駆者組合の遺産

第2章 協同組合は何を求められているか

—協同組合の理念とシチズンシップ—

第3章 地域づくりと社会的企業

—共生経済と社会的企業—

第4章 I レイドロー報告の想像力

—協同組合運動の持続可能性を求めて—

II 協同組合は「未来の創造者」になれるか

—新ビジョンは協同組合を「正気の島」にする—

第5章 シチズンシップと非営利・協同

地域と協同の研究センター 6月の活動予定

6月5日（火）岐阜地域懇談会世話人会

6月7日（木）名市大寄付講義⑧，研究フォーラム食と農世話人会

6月12日（火）コープぎふ総代会，尾張地域懇談会世話人会 C a f éわたぼうし訪問

6月13日（水）コープみえ総代会

6月14日（木）名市大寄付講義⑨，コープあい総代会

6月18日（月）東海コープ総会

6月19日（火）岐阜地域懇談会正ヶ洞棚田視察

6月20日（水）くらしを語りあう会

6月21日（木）名市大寄付講義⑩

6月22日（金）第4期「協同の未来塾」①

6月27日（水）研究フォーラム環境世話人会

6月28日（木）名市大寄付講義⑪

6月29日（金）市民が協働を学びあう講座企画委員会，愛知の協同組合間協同相談会

6月30日（土）アジア・カフェ

地域と協同の研究センターNEWS165号

発行日2018年5月25日定価200円（税・送料込み）

年会費には購読料が含まれています

発行 特定非営利活動法人 地域と協同の研究センター 代表理事 西川 幸城

〒464-0824 名古屋市千種区稲舟通1-3-9 TEL 052-781-8280 FAX 052-781-8315

E-mail AEL03416@nifty.com HP <http://www.tiiki-kyodo.net/>